

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート①（8月） 「アメリカでの全く新しい生活」

■ 自己紹介

はじめまして。平成25年度派遣・機械工学系奨学生の皆川智紀と申します。

私は恩師をはじめ多くの方から「海外で暮らして日本と違う世界を見ることは、人生の貴重な財産になる」と強く勧められていました。今回のフィンドレー大学への留学及びインターンシップでは「英語を学ぶ・エンジニアとしての経験を積む」ということが大きな目的ですが、私はそれと同じくらいに「異国の文化・考え方から学び、自分の世界を広げる」ということを目標として掲げたいと思っています。

また、そうして得られた貴重な経験を親善大使として、あるいは一個人として発信していく形で、自分を奨学生として送り出して下さった埼玉県及びフィンドレーの方々にも少しでも還元することができれば幸いです。

■ フィンドレーについて

フィンドレー市はトレドの南約75kmに位置する人口約4万人の比較的小さな街です。小さい街ながら交通の便はよく、州間高速道路I-75（フリーハイウェイ）を利用すれば空港のあるトレドまで一時間で行くことができます。

住宅地や農地が多い一方で、市の中心から少し離れると工業団地があるため、人口が少ないながらもとても豊かで平和な街です。

機械工学系コースの奨学生として一緒に来た奥村君と私が生活しているアパートはキャンパスのすぐ近くにあります。アパートの周辺を歩いていると、時折近所の方が気さくに話しかけてくることもあります。大学の周辺ということもあって外国人がさほど珍しくないのかもしれませんが、一緒に話していると親切にフィンドレーのことを教えてくれることが多く、地域の方の懐の広さを強く感じます。

■ 大学について

大学構内は広く、自然も豊かです。昼間はリスなどを見かけることができ、夜になると蛍が現れることもあります。比較的學生が少ない大学ということもあって、キャンパス内の設備には常にゆとりがあり、混み合っていて順番待ちをする、というようなことは非常にまれです。

私は週に三日、IELP(Intensive English Language Program : 集中英語コース)という、第二外国語としての英語の講義を受講しています。1クラスの平均人数は15人程度で、日本・中国・韓国・サウジアラビア・インドなどアジアを中心

に様々な国籍の学生が受講しています。

この講義を経て面白いと思ったのは、「英語を介せば多くの国の人とやりとりができる」という確かな実感です。事実として分かっていたことでも、実感を伴った時自分の中で何かが変わるのを感じました。また、国籍を越えて一つのテーマについて議論するという活動の中で、時として考え方の違いに驚き、また逆に違う文化に身を置いていながら同じように考えていることに驚くことも少なくありません。この驚きは留学という環境でなければ得難いものだと思います。

■ インターンシップについて

大学とは別に週に二日、朝 7:30 から 16:00 までニッシンブレキオハイオ(NBO)という工場のマシニング（機械工作）という部門でインターンシップとして働いています。大学では教授を除けば基本的に20～25歳の学生としか話さないため、自分よりも年上の、現地の人と仕事についての会話をすることは、日常会話とはまた違う英語を学ぶことができるとても貴重な経験です。

私と奥村君は、自動車のブレーキの特にキャリパーと呼ばれる部分についての加工・品質管理の作業について教わっています。まだ日が浅いため、工場内の各設備の意味、工作機械はどういったことをしているのか、どういったパーツが問題なのかという基本的なことから順番に教わっています。



入学式の様子



工場での作業風景